

水圏保全学研究室

教員名：松重一輝

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

河川・沿岸域の生物多様性保全に役立つ研究を行っています。

① 自然科学的アプローチ

絶滅危惧種ニホンウナギは、かば焼きでお馴染みの身近な魚です。本種は外洋に産卵場を持ちますが、成育場である東アジア一帯の河川・沿岸域で生涯の大半の期間を過ごします。そのため、個体数の回復のためには、河川・沿岸域に好適な生息環境を維持・修復することが必須といえます。また、ニホンウナギはその特異な生態とカリスマ性から、河川・沿岸域における生態系保全の象徴種としての潜在性を秘めています。

本研究室では、ニホンウナギの河川生態とそれに対する人為的影響の解明、そして、応急的な環境改善手法の開発・効果検証を通して、河川・沿岸域の生物多様性保全に貢献しうる成果の創出を目指しています。

おもな研究手法：野外調査・行動実験・耳石分析・統計モデル・GIS



ニホンウナギの生活史

夜の川底から顔を出すニホンウナギ

石倉カゴを用いた河川調査の様子

② 社会科学的アプローチ

生物の保全は、それを求める人々の声があって初めて実現します。本研究室では、「うなぎ」への市民の認識やその形成要因、歴史的変遷について調べることで、ニホンウナギ保全への人々の動機づけを高める方法を探求しています。

おもな研究手法：新聞記事の内容分析・質問票調査・自然観察会

● 先輩はどんなところに就職しているの？

今年度設立の研究室なので、卒業生はいません（2024年4月現在）。